

# 資料館だより

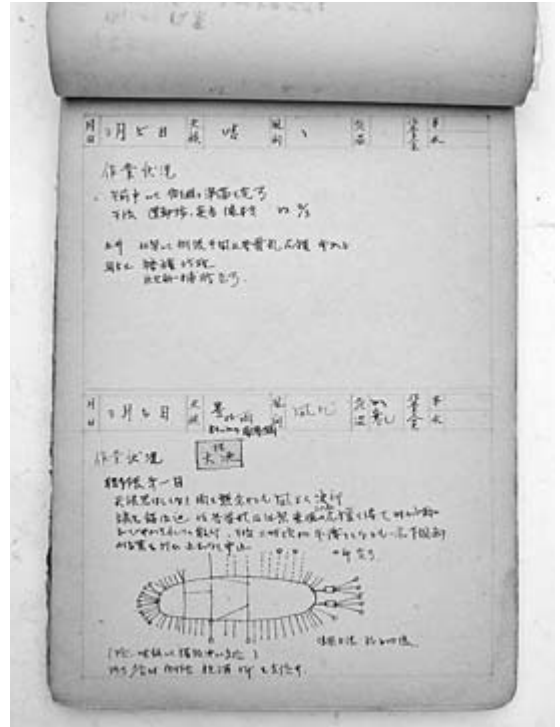
Vol.34 No.1 (通巻182号)

2008.9.25(年4回発行)



大漁日誌 昭和二十四～二十六年度 瀬洞漁場

[写真右] 大謀網の重しとなる俵の付け替え作業状況が記されている



## 寄贈資料の中から 大漁日誌

西浦江梨の川上貢氏から、昭和24～26年の大漁日誌を寄贈していただきました。執筆者は経営者の尾崎公太郎氏。昭和26年の日誌から一部抜粋して紹介します。

4月19日 曇後雨 凧よし

### 作業状況

朝起し 4時半-5時半 潮よし 15.7℃  
 羽正いか3 するめいか10匁 さばあじ若干 安幸1枚  
 昨夕分と共に通船にて沼市運搬  
 増山大工により通船 舟魂様を入れる  
 第一回舟たて 午前中各網舟の舟たてを行ふ  
 夕起し 4時半-5時半 や>横潮 15.7℃  
 漁獲皆無

4月20日 曇後晴 南西風やや吹く

### 作業状況 祝 大々漁

夕起し めじ (700匁) 8500本 (5700匁) あり  
 朝起し 4時半-5時半 15.6℃ 潮よし  
 漁獲少なく小権鹿 (約15匁) 1本 小あじ10匁 ばせう  
 いなだ いか若干 通船にて沼市運搬  
 沖ノ鳥多数 浦内に入り込むを見る  
 夕起し 4時半-7時半 潮よし 15.6℃  
 締出より2/3位迄揚ぐるも僅かいなだ1本のみに見えるの

み。俄然沖側に大渦巻起り めじ大群のみるを発見す。  
 めじ8500本あり 約二時間を費して魚を取り上げ手配せる  
 共愛及西浦丸にて沼市運搬販売す。  
 午後11時半帰場す (全員にて)  
 未曾有の大漁に全員感激 今後の奮斗を期す  
 神崎氏仕切照会のため沼津泊り

4月21日 晴 南西風やや吹く

### 作業状況 祝 大漁

10時起し めじ1800本 2時起し めじ1000本あり  
 朝起し 4時半-5時半 潮なし 15.6℃  
 漁獲少々 中さば15匁 ばせう若干 めじ60本  
 市場公休のため氷漬す  
 通船氷運搬のため沼津行き。  
 臨時起し 10時-11時半  
 めじを期待して揚網 めじ約1800本あり 明朝迄止置  
 くため電話して千鳥丸を呼び氷漬す  
 臨時起し 2時-3時  
 めじ 約1000本あり 魚見舟ポコ及浸積タンへ氷漬す  
 夕起し 4時半-5時半  
 めじ ポコへ氷漬す  
 漁況 平沢漁協約7500本 古宇漁協5000本 重寺400  
 本 千本200本あり

## 駿河湾の漁

## 足立 実さんの漁話

ずしゅううちゅうらしんけいしゅくず ぎさい  
豆州内浦真景縮図 希齋

前号でも少し触れたが、絵師・希齋が描いた「豆州内浦真景縮図」について述べてみたい。

この図集は、天保15年（1844年）8月1日～24日に掛け、希齋が沼津に逗留し描いたもので、海から陸を眺める構図の、従来とは異なる斬新な手法で描かれている。

全部で四巻あり、私の手元には複写で第三巻、第四巻しかない。この内、四巻目は内浦・西浦の絵が多く描かれている。

「豆州内浦真景縮図」は足立春島という人が企画している。春島は口野の名主、足立格右衛門義保の弟で、国学を学んだ人であるが、沼津の国学者達とはあまり交流がなく、むしろ田方の国学者達との交流が深かったようだ。

春島の道中記「旅の記」や学問上の系図によれば、春島は本居宣長の養子、本居大平に師事していた。

希齋は春島と国学の仲間であり、絵も描けるので、村の歴史を残したいと春島が考え、一緒に来てもらったのではないだろうか。

希齋は雅号で本名は判らないが、希齋という人物が実在していたことは、文書で明らかになっている。この文書は「いま松崎にいて、この辺は大体かき終わったので、これから駿河の方に行く。」という内容の手紙で、希齋が春島の兄の足立義保に送っている。

希齋については色々な説があるが、春島との交流や「豆州内浦真景縮図」の原本を持っていた人等の状況から、江間（伊豆の国市）の津田家の人ではないか、と考えている。

当時の沼津では、今の三枚橋から川廓、沼津城の大手門の所まで、河岸として使用していた。

しかし強い西風が吹くと、狩野川の河口に砂等が堆積し、我入道と千本浜がくっ付いてしまい、船の出入りが出来なくなる。勿論、川底を浚渫し、水深を深くする川普請は行うが、今日のように機械で行うのではなく、人力でしか行えない。

このため千石船等の大きな船は河岸に直接接岸することが出来ず、江の浦湾に停泊し、舩（小船）で河岸と船との間、約9キロメートルを往復して荷物を搬送した。例えば甲州（山梨県）から江戸（東京都）に送る米は、籠坂峠を越えて沼津の河岸から舩で江の浦湾まで運び、停泊している千石船に積み替えて運んだ。

当時、江戸の台所で使う魚の殆どは、沼津五十集84

人衆と言う、問屋や仲買の人達が、海路で搬送していた。

また甲州では、沼津から運んだ貝が「煮貝」として名物となっている。当時、西浦、内浦、静浦から我入道海岸に掛けてアワビが取れ、伊豆の海からも水揚げがあり、これらの売り先が甲州であった。

こうした人達を「山越商人」と言っていた。



豆州内浦真景縮図

駿東郡口野村 海曜山龍光院境内眺望 江浦ヲ望之図

この図には「天保十五年甲辰八月朔日 足立春島同行」とあるので、希齋が春島と一緒に船に乗り、描いたものであることがわかる。

この図を見ると、江の浦の港に千石船とも思える大きな船が3隻停泊している。おそらくこの船が荷物を搬送する船で、河岸に荷揚げをし、魚介類等、沼津からの荷を積み込むため待っているのであろう。当時の様子をうかがう事ができる。

また周囲には舩とも漁船とも思える小船が数艘、描かれている。

左側に描かれている高い山に「鷹頭山」とあるが、これは今の鷹頭山の事である。

（話：足立 実氏 沼津市口野在住）

資料館の調査ノートから⑭

## 囲炉裏端での家族の席

当館常設展の生活用具の展示では、昭和時代初期の静岡県東部地域（山間部）の稲作農家を想定し、その台所周辺を再現したイラストを展示しています。

このイラストからは、当時の生活の様子を具体的に知ることができますが、今回は、かつて囲炉裏端で厳しく決められていた家族の席についてご紹介します。

### 1. 家族の席

薪を燃やす囲炉裏端は暖かく明るいので、家の中心として食事のときの一家団欒の場であり、藁仕事や針仕事などの夜なべ仕事の場でもあった。

大正時代から昭和時代にかけて、囲炉裏端で家族が座る席は、ちゃぶ台が普及し始める以前は、家族間の秩序に従って厳しく決められていた。

土間から一番遠いヨコザ（横座）には、土間を向いて家長だけが座った。「人の横座に猫馬鹿坊主」と言い伝えられたように、仏事で訪れた僧侶などの特別な場合を除き、家長以外の人が座ることは許されなかった。

横座の隣で入口に最も近いキヤクザ（客座）には、家長を除く男達が座った。キヤクザの向かいとなる台所に近いカカザ（嬪座）には主婦が座り、土間に最も近い横座の向かいは末席のキジリ（木尻）となっていた。近所や親戚などの客はキヤクザに座るが、普段は

家長と主婦以外の家族がキヤクザとキジリに座った。

また、囲炉裏の枠である炉縁の四隅のうち、カカザのキジリ側の接合部分のみ、斜めでなくまっすぐに作るという特徴があった。その理由として、静岡県の東部地域では、嫁が出ていかないようにするため、という伝承もある。

### 2. 箱膳からちゃぶ台へ

囲炉裏端の決められた席で食事をするときには、個人専用の箱膳を使った。箱膳は蓋つきの四角い木箱で、食事のときには蓋を裏返しにして飯台とし、個人専用の飯茶碗・汁碗・箸・小皿を並べた。

大正時代から昭和時代にかけてちゃぶ台が普及し始めると、家族は食卓を囲んで座るようになった。ちゃぶ台には長方形と円形とがあり、円形の方が家族間の秩序による席が厳しくなく、一家団欒の楽しい食卓になった。

さらに昭和30年代にテレビが普及すると、テレビの一番見やすい位置に家長が座るようになったため、座の位置が逆転した。

このように、一家団欒の風景の移り変わりは、家族間の厳しい秩序が薄れていくという、社会の大きな変化と密接な関わりをもっていたことがうかがわれる。

参考文献：『静岡県史 資料編23 民俗一』（1989年）・『韮山町史 第九巻 民俗』（1993年）



昭和時代初期の農家の食事風景 部分（外立ますみ氏作画）

## 資料館からのお知らせ

3市博物館共同企画展「あそび歳時記」を開催  
(10月1日～12月7日)

何時の間にか御用邸のセミ時雨も静かになり、夕方には虫の声が聞こえ始めました。

秋がもうそこまで来ています。

さて当館では10月1日から12月7日まで、富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「あそび歳時記」を開催します。

カルタ、独楽回し、凧揚げ、双六…

幼い頃友達と一緒に、暗くなるまで夢中になった遊び、春・夏・秋・冬、季節ごとに楽しんだ遊び…、

きっと皆さんも懐かしい思い出をお持ちのことと思います。



お正月の風物詩 ドンドン焼き

今回はこうした遊びの中から生活の移り変わりをご紹介します。

このほか、雛人形、「海」にちなんだ全国の船の玩具、「祭」にちなんだお神輿や山車の玩具や人形浄瑠璃の頭(かしら)のご紹介など、ご家族で楽しめる催しを企画しました。

特に今回の展示では、ご来館戴いた皆様に、当館職員が展示品をご説明し、また皆様からのご質問にお応えする「ギャラリートーク」も計画しています。

秋の1日、ご家族お揃いで御用邸を散策しながら歴史民俗資料館で、あの頃の自分に出会ってみませんか。

## ギャラリートーク

10月13日、11月2日、11月22日

(時間 午前11時～、午後2時～)



人形浄瑠璃の頭(かしら)  
文七



三番叟

## 「たけかごづくり教室」が行われました



男さんの指導のもと、参加した6人の小・中学生は、細い竹ひごが折れないよう、時々水に浸けながら一本

8月3日(日)、夏休み体験学習「たけかごづくり教室」が開催されました。竹箆職人の杉村弘

一本丁寧に編み込み、全員が立派な作品を完成し、「ものづくり」の楽しさを満喫していました。

## 沼津市歴史民俗資料館だより

2008.9.25 発行 Vol.34 No.1 (通巻182号)

編集・発行 〒410-0822 沼津市下香貫島郷2802-1

沼津御用邸記念公園内

沼津市歴史民俗資料館 TEL 055-932-6266

FAX 055-934-2436

URL:<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/rekimin/index.htm>

E-mail:[cul-rekimin@city.numazu.shizuoka.jp](mailto:cul-rekimin@city.numazu.shizuoka.jp)